

醍醐地区ワークショップ

地域の現状と課題	参加者の意見	役割
<地区公民館のあり方について>		
◇常に地区公民館を開放することによって、団体利用だけでなく憩いの場作りになるのではないか。	◇地区公民館や分館について、地区団体の定期利用の場とすることを検討していく必要がある。世代にとらわれることのない交流の場を作っていく。	協働
◇地区公民館にてさまざまな講義が催されるが中央公民館が遠いので参加しにくい。	◇中央公民館での講演会は参加人数を求めているが、効率を求めるだけでなく各地区公民館での開催を検討する。また、歴史講座や健康講座などを近場の公民館で開催することで、気持ちや服装の面（街場に出る感覚）で、潜在的な受講者を発掘できる。	協働
◇今後西部地区公民館と地区分館の連携を強化していく必要があるのではないか。	◇地区公民館と分館の協働で講座開講や、地区公民館主催の事業で社会教育を活発化していく。生涯学習活動推進員や、地域おこし活動推進員などと連携して積極的に地域活動を展開していく。	協働
◇災害における公民館機能の充実や、防災訓練の充実。	◇地元消防団と連携しながらで日頃から機器の点検・使い方練習を行う。	地域
<地域振興について>		
◇地域を盛り上げていくには若者が多く集まる場を作る必要がある。思い浮かぶのは消防団くらいだが、加入率が悪くなっているのが心配である。	◇地域の消防団の必要性を、地域が一丸となって小さい時から子供たちに教えていく必要がある。	地域
	◇近所との意思疎通が希薄になってきているので、昔みたいに、若い人達が集えるサークル、青年団みたいな団体が必要である。	地域
<保育所などについて>		
◇醍醐地区にも保育所や学童があれば、若い人達もかなり住みやすくなるのではないか。	◇三世帯同居が多い地区では不要との声もあるが、地区においても現在、設置要望の声が上がっている。まずは話を聞くことが必要だ。学校の施設はそもそも地域利用を念頭に建設されているから、場所的には問題ないと考えている。	協働
<地域文化について>		
◇歴史の講演講座・地域住民が境内を歩くことが必要である。 ・日和田橋跡地の活用（看板の更新）。 ・慈恩寺について市報で歴史や文化財を連載してほしい（短編で読み易く）。 ・醍醐地区全体の文化財の発掘・整理	◇醍醐全体の歴史の整理が必要である。各地区には様々な歴史的価値のあるものが存在すると思う。自分の地区のことは分かるが、地区全体としての位置づけになるとかなり難しい。専門家と協力しながら、体系的な整理を行っていく必要がある。	協働
◇醍醐地区民自身も楽しめる文化的イベントがあってもいいと思う。	◇盆踊りなどがとてもいいと思う。地区を離れた人も帰省するきっかけになるし、懐かしい顔にも出会える。それを機に醍醐に戻ってこようと思うきっかけづくりになると思う。	地域
◇慈恩寺だけでなく地域の神社などに対する助成が必要になっている。地域で積み立てなどを行っているが人口減少や世帯減少で厳しい状態にある。	◇地域の信仰に対する直接的な補助は難しいかもしれないが、国史跡指定に伴って文化的価値の保存などの名目などで補助などを考えてもらうこともあるのではないか。	協働
◇慈恩寺資料館の早期完成を地区民が望んでいる。	◇慈恩寺の販売拠点として必置である。地区民も頑張っているが、行政からの援助が必須だと考えている。歴史的価値の保存と、観光地としての成功は分けて考える必要がある。ただし、歴史的価値の保存について真摯に取り組んでいく必要がある。	協働
<福祉・介護対策について>		
◇高齢化が進む中、要介護を防ぐため、健康教室を地域に出前してもらう必要がある。	◇公民館・分館などと連携して開催を検討していかなければならない。出前講義のメニューをまとめたものの各代表者への周知等を考える。	協働
<少子化・人口減少について>		
◇少子化・人口減少対策として若者が地域に残る施策が求められる。現時点でも限界集落ではなく消滅集落になりつつある。	◇人口減少や少子化などの諸問題は働く場の減少に起因していると考えている。ただ企業誘致の問題についてすでに地域や、一職員の力でなんとかできる範囲を超えている。市全体として、政治的に動いていく必要があると考える。	行政
	◇若者が地域に残る施策必要である。（場所の安全性を前面に出した優良企業の誘致や結婚促進など）	行政
	◇地区全体が仲人のつもりで独身男女の結婚を進めていく必要がある。	地域
	◇醍醐地区は、車の運転ができないとかなり不便であるので、不便な分、子どもが3人目以上であれば、市中心地に比べて手当等を手厚く優遇するなどの施策も必要だ。	行政

地域の現状と課題	参加者の意見	役割
<商店等の整備について>		
◇お年寄りの人にとっては、店が近所になく買い物が不便である。(現在、デマンドタクシーの補助策がとられている。)	◇市内の商店等が協力し合って、週1回や10日に1回など、行政と協力し合って、店に連れていってくれるようなシステムを作ることや、宅配業者等の更なる充実を図る。	協働
<特産品の開発について>		
◇芋煮について県外の客はいつでも食べられると思っている。 醍醐地区民は欲がないため、商売っ気を出していきたいが、商売となるとかなり難しい。	◇地区内には豊富な農産物がたくさんあるので、それらを生かした特産品の開発が必要である。 ◇醍醐地区に行けば、何かが食べられるといった、そんな楽しさをもってもらうことが必要だ。慈恩寺資料館を早期に作ってもらえば、それに伴い、お土産の店や食物の店ができるのではないかと。	協働 行政
<耕作放棄地について>		
◇山の畑については、ほとんど手がつけられないほど荒れてきている。里前の水田や畑も、かなりのスピードで耕作放棄地がでていく。	◇個人ではなく、まとまりをもって農業を推進する。 ◇若手の農業の担い手の育成と農業志望者を快く受け入れる対策が必要である。 ◇農免道路の整備、市民農園開園の後押し、紅花・蓮の植栽、太陽光発電（メガソーラー）の誘致。	協働 協働 行政
<農業の後継者問題について>		
◇農作物は作ってもなかなかお金にならないため、設備投資もできず、国の施策も見えないため、息子にはさせられない。また、朝市みたいなものも儲からないし、食べていくのがかなり難しいイメージがある。 ◇山形の農産物の評価は高いのに、さくらんぼが終わった後の特産品がないので、通年で生産物が必要である。	◇農産加工設備補助事業の推進をはかる。 ◇農業機械を購入することはかなり難しいので、行政等で購入してリースしてくれるなど補助すると、農業を続けられる人がでてくる可能性もある。 ◇さらに生産物に付加価値をつけるなど、儲かる農業を目指して、行政と協働して考えていく必要がある。	行政 協働 協働
<森林整備について>		
◇山林の松くい虫、ナラ枯れがひどくなっている。また、山林の草刈りなどをする人が少なく、非常に今後心配である。	◇地区の物は、地区の住民の手で守っていかなければならない。みんなで協力していくという手だてを今後考えていかなければならない。	地域
<道路について>		
◇道路の拡幅・整備について、鳥居坂の上り口から活性化センターまでや箕輪東線などの旧道が狭くてすれ違いに困る。道が悪いと観光客への悪いイメージになる。 ◇日和田から箕輪までの夜道が暗いため、中学生が歩いて帰る時など心配である。 ◇山王台公園・肥前楯公園の道路整備が必要である。雨が降ると砂利道が洗掘りされてしまう。 ◇道路に庭木が出ていて危険な箇所があり、冬など落雪が危険である。	◇整備する場合は、道路を広げるだけでなく、慈恩寺をイメージしたタイルやレリーフなどを入れるように要望する。 ◇観光客などがすれ違えず立ち往生しないように、わかりやすい交通誘導看板の設置を要望する。 ◇地域で危険箇所の洗い出しを行い、街灯の設置を要望していく。 ◇観光ルートとして整備が必要であり、地域と行政が協力して、排水対策をして崖などが崩れないように舗装する。 ◇町会と危険箇所の地主と話し合い庭木を管理してもらう。チラシなどを配布し、迷惑な庭木をなくするため、地域の意識を向上させる。	行政 行政 協働 協働 地域
除雪について ◇冬になるとJ A醍醐支所前で毎年のように事故が起こる。 ◇雪道が狭くなり通行が危険である。通勤・通学前に除雪してほしい。丁寧にきれいに除雪してほしい。 ◇除雪業者が、入り口に雪を置いて行くので、きちんと打合せが必要である。	◇危険箇所に看板を出し注意喚起を行い、融雪剤を撒くなど安全対策を行う。また、市には適切な除雪を要望する。 ◇県道については、県に要望していく。市道については、除雪の順番を早くするよう要望していく。 ◇除雪の期間が始まる前に、地域住民と除雪業者で話し合いを持つ。高齢者宅の前などは入口に雪を置かないように、思いやり除雪を行うよう要望する。	協働 行政 協働
<危機管理について>		
◇地域にどんな危険が潜んでいるのかイメージできない。	◇防災組織（自主防災組織など）を立ち上げ、危険箇所の洗い出しを行う。隣近所との連絡を日ごろから心がける。防災スピーカーや防災無線をもっと活用する。	地域
<公園について>		
◇日和田の八幡神社の滑り台やブランコの管理が行われていない。危険な遊具の取り換え・整備が必要である。また、子供が遊んだり、地区民が集える公園が少ないので、住民参加による公園整備が必要である。	◇地域の各町会長が、協力し合って点検やメンテナンスを行う。 ◇地域でよく話し合って、現在ある公園の機能を向上させて活用していく。	地域 地域
<空き家問題について>		
◇関係者がなくなっていて空き家の持ち主と連絡が取れない。住宅は半壊、小屋は全壊に近いものがあり風でトタンが飛ぶなど危険である。	◇市に空き家の雪下ろしや取り壊しの補助メニューなどを要望する。インターネットでPRして、子育て世代に安く貸すなど有効利用する。 ◇行政と地域が、空き家の情報を共有して定期的に点検を行う。税金（住宅用土地の軽減）のあり方を考えていく。	協働 協働

地域の現状と課題	参加者の意見	役割
<土地の活用について>		
◇慈恩寺の旧公民館空き地がもったいない。	◇火災時にポンプ車の待機を行うなど防災スペースとして地域で駐車場を整備することや、簡易休憩所を設置する。	協働
◇山地（急傾斜地）が多く土地の利用がしづらい。	◇山の斜面にソーラーパネルを設置して地域の発電を行うなど有効利用を考えていく。	協働
<公共交通について>		
◇公共の交通機関が整備されておらず、ネットワークとしてつながらない。	◇デマンドタクシーを観光客にも開放し、慈恩寺に観光客が来やすい環境を整える。	行政
	◇醍醐に観光客を呼び込むために、市内循環バスの整備を要望する。	行政
<観光について>		
◇市道下道・鬼越線（七曲り坂）でマイクロバスが何回も立ち往生している。東光坊そばのところに4 t以上通行止めの看板があるが、見落としやすい。観光地としての慈恩寺の評判が落ちる。	◇坂の入り口に、乗用車幅のポールを設置するなど、マイクロバスが入ってこない工夫を要望する。看板の設置場所の検討を行う。バスが通れる道のわかりやすい看板を設置する。	協働
◇蓮池を見に来た観光客が狭い道で U ターンする場所がないため、民家の敷地に入ってくる。	◇旧小学校跡地の入り口を入りやすく整備し U ターン場所にできるよう整備することを要望する。	協働
◇国史跡指定になった慈恩寺一山を観光資源として今後一層活用していかなければならない。	◇総合的なガイドランス施設・保存施設の整備。（休憩所・食事処・案内所を）	協働
◇慈恩寺へのルートで道幅が狭い。	◇軽食メニューの開発（慈恩寺だけの名物として漬物・果物など）。	協働
◇冬の誘客について、大型バスが登れない。	◇散歩コース・サイクリングコースを作りマップを高松駅に置く。	協働
◇慈恩寺の秘仏公開が終わると客足が鈍る。景観名所がない。	◇女性客の取り込み（本堂屋根の苔などのパワースポットを売りに）	協働
	◇アクセスに難があるが、昔ながらの道で景観的に良い。景観を考慮した整備が必要（長期的に）である。	協働
◇観光ルートのメニューが少ない。	◇融雪道路の整備を図る。歩いて行ける行程を考える（除雪対応）。	協働
	◇仙台圏の客の取り込み。リピーターの取り込み。	行政
	◇四季折々の見どころの整備（慈恩寺までのルートへフラワーロードの整備）。見栄えのする花木・植物（フラワーボールなど）	行政
	◇近隣市町村と連携したルートの開発（1日コース等）	協働
	◇慈恩寺の売りを洗い出す。	協働
	◇チェリーランド、最上川ふるさと総合公園でのダイナミックな誘客活動。慈恩寺専門の観光案内所の設置し慈恩寺へ人を呼び込む。パンフレットだけでなく幟をもって人でPR。地元の間人は良いところに気付きにくいので外部の人の目で良いところに気付く・洗い出す。	協働